

# 姫路市南西部地域の医療の充実について

(製鉄記念広畑病院の後医療)



兵庫県 病院局



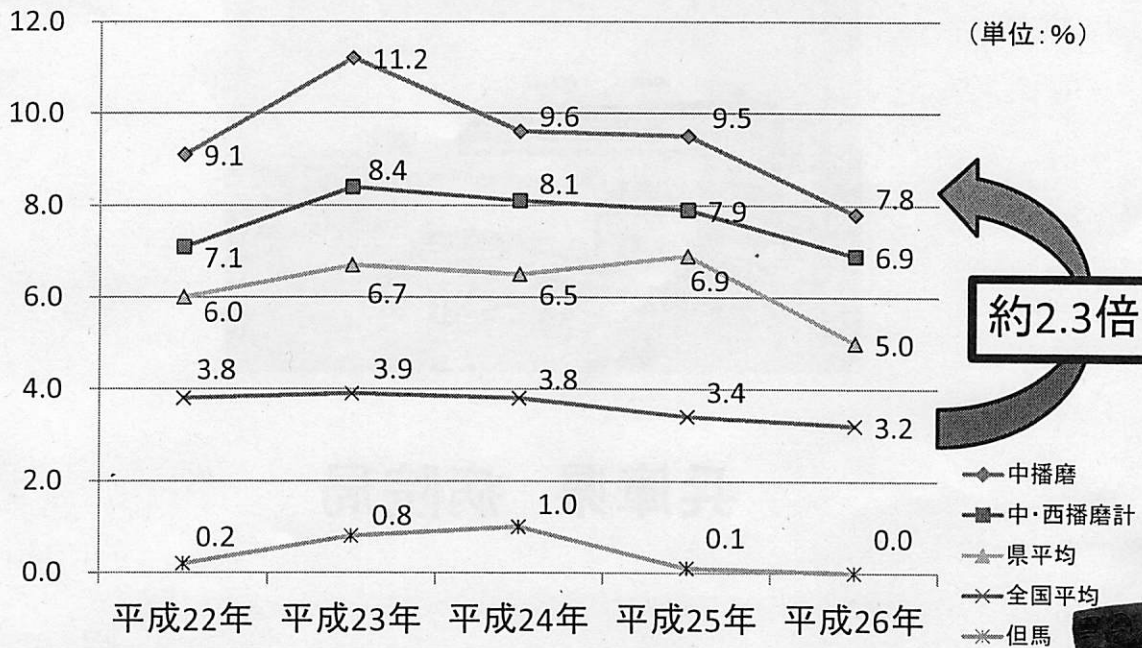
## I 高度急性期医療の充実

【姫路新病院による体制整備】

重症患者の救急受け入れ状況

重症以上の救急搬送患者のうち受入照会回数4回以上の患者の占める割合

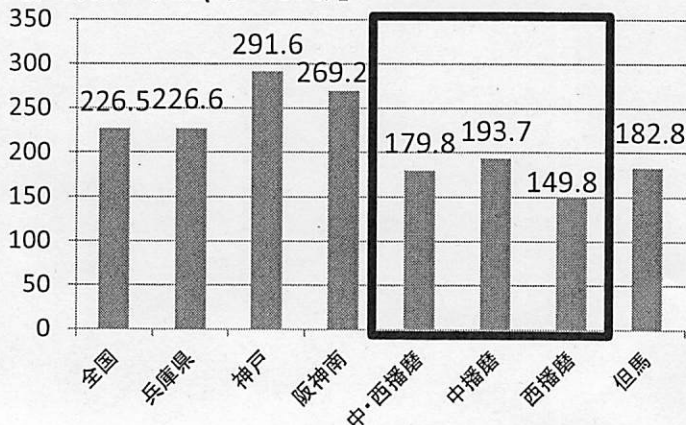
- ・中播磨・西播磨圏域合計 ⇒ 県平均・全国平均を上回る
- ・中播磨圏域 ⇒ 全国平均の約2.3倍



全国と比べ大幅に少ない医師数

- ・特に西播磨圏域は、県内で最も医師数が少なく、県西部における教育・研修機能を備えたマグネットホスピタルの整備、若手医師が定着できる仕組み作りが求められる
- ・姫路地域周辺の高校では、医学部への進学者数は多いが、地元に戻ってくる医師が少ない

【医師数の状況(対10万人)】



【姫路市内・近隣高校のH27医学部合格者数】

区分	人数	人数	
		国公立	私立
A高校	20人	10人	10人
B高校	76人	37人	39人
C高校	12人	7人	5人
D高校	3人	3人	0人
E高校	1人	1人	0人
計	112人	58人	54人

※病院局から主な高校への聞き取り調査で、延べ人数

### 県立姫路循環器病センターの概要

- 1 場所 姫路市西庄甲520
- 2 土地 約54,000㎡
- 3 建物 のべ床面積 約28,000㎡
- 4 病床数 350床
- 5 診療科 15科1室(循環器専門病院)

区分	診療科
内科系診療科	内科、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科
外科系診療科	外科、心臓血管外科、脳神経外科、形成外科、
その他専門診療科	精神科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 病理診断科、救急科、高齢者脳機能治療室

- 6 課題
  - ・循環器専門病院として診療科が限られているため合併症への対応が十分でない。
  - ・救急医の確保が十分でなく、不足する診療科がある。

### 製鉄記念広畑病院の概要

- 1 場所 姫路市広畑区夢前町3丁目1番地
- 2 土地 約45,000㎡
- 3 建物 のべ床面積 約50,000㎡
- 4 病床数 392床(一般362床、救命救急センター30床)
- 5 診療科 28科(総合病院)

区分	診療科
内科系診療科	内科、循環器内科、神経内科、糖尿病内科、消化器内科、 腎臓内科、緩和ケア内科
外科系診療科	外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、消化器 外科、血管外科、頸部外科、肛門外科、
その他専門診療科	皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、 リウマチ科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、 麻酔科、産婦人科、小児科

- 6 課題
  - ・総合型の病院であるが、循環器疾患に対する医療が十分ではない。
  - ・救急医の確保が十分でなく、不足する診療科がある。

中・西播磨圏域3次救急の課題解決に向けて

【課題】

- ・全国平均に比べ救急隊の要請に対する断り件数が多く、圏域外搬送も多い
- ・救命救急センター機能を持つ、製鉄記念広畑病院と姫路循環器病センターに不足する診療科がある
- ・救急医の確保が十分でない
- ・人口規模に対し、全国に比べ大幅に医師数が少ない



製鉄記念広畑病院と県立姫路循環器病センターを統合再編し、地域の医療課題の解決を図る

姫路新病院の内容(基本計画抜粋)

- 1 場所 姫路市神屋町  
キャスティ21イベントゾーン(高等教育研究エリア内)
- 2 土地 30,000㎡
- 3 建物 のべ床面積 約68,400㎡(H29当初予算時点)
- 4 病床数 736床(一般720床、精神16床)  
〔 内 訳 救命救急センター44床、精神病棟16床、  
集中治療病床32床、周産期51床、その他593床 〕
- 5 診療科 34科(総合病院)

区分	診療科
内科系診療科	総合内科(内科)、循環器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、腫瘍内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科
外科系診療科	外科、心臓血管外科、脳神経外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、歯科口腔外科
その他専門診療科	皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線診断科、放射線治療科、膠原病(リウマチ)科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、精神科、麻酔科、産婦人科、小児科

6 開院予定 平成34年度上期

姫路新病院の基本方針(基本計画抜粋)

- (1) 両病院がこれまで行ってきた循環器疾患医療、救命救急センター機能等、専門性の高い医療については、引き続き継承・発展させていく。
- (2) 高度専門・急性期医療を中心とした政策医療のうち、中播磨・西播磨圏域が抱える課題を踏まえ、当該圏域における中核的な医療機関を目指す。
- (3) 総合的な診療機能を活かし、成人を中心とした幅広い疾患に対応する救急医療の充実を図ることにより、中播磨・西播磨圏域における医療提供体制等の課題解決に寄与する。
- (4) 高度専門・急性期医療を担う病院として中播磨・西播磨圏域の公立病院、民間病院等と連携・協力し、地域医療ネットワークの中心的役割を果たす。
- (5) 先進医療への貢献を含めた質の高い診療・教育・研究を行い、将来の活躍が期待される医師・医療従事者が集まるリーディングホスピタルを目指す。
- (6) 診療・教育・研究活動の成果を広く公開・還元して、疾病予防の啓発活動や予防医学の進展に貢献する。

姫路新病院の病床・病床機能について(基本計画抜粋)

1 両病院の病床数			
姫路循環器病センター	350床		
製鉄記念広畑病院	392床	→	姫路新病院 736床
合計	742床		

両病院の病床規模の考え方

新生物、糖尿病、心疾患、脳血管疾患や救急に関連した疾患(呼吸器、筋骨格系、損傷・中毒)を重点対象とし、圏域外に移動している高度急性期及び急性期患者への対応強化を図る。

2 病床機能			
両病院とも高度急性期・急性期	→	高度急性期・急性期	
救命救急センターを設置		救命救急センターを設置	

3 診療科			
姫路循環器病センター	15科1室	→	34科
製鉄記念広畑病院	28科		新設予定 呼吸器内科・腫瘍内科、 血液内科、感染症内科

圏域内受け入れの強化+診療機能の拡充を実施します

## II 市南西部医療の拡充

【広畑後医療による2次救急の実施】

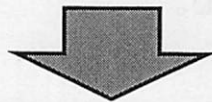
【ツカザキ病院の機能強化】

### II 市南西部の医療の拡充

#### 市南西部地域の医療体制の課題

【課題】

- ・新病院へ引き継がれない、広畑地区の2次救急等医療機能の確保
- ・製鉄記念広畑病院とともに、地域の2次救急を支えるツカザキ病院の慢性的な満床



#### 市南西部の医療体制の充実

【対応策】

- ・ツカザキ病院との連携による製鉄記念広畑病院後医療の実施
- ・ツカザキ病院の機能拡充

ツカザキ病院との連携による製鉄記念広畑病院後医療の実施

- 1 診療科 7科  
〔 総合診療科、消化器内科、循環器内科、神経内科、眼科  
人工透析内科、リハビリテーション科 〕
- 2 救急機能 } 内科2次輪番に登録予定  
〔 外科については総合診療科において簡単な縫合処置等  
を実施、手術適用患者については、網干区にあるツカ  
ザキ病院の救急機能を拡充（40床増床）したうえで、  
専用車両で搬送し対応 〕
- 3 病床種別 地域包括ケア病棟（中等症までの内科に対応）  
回復期リハ病棟（ツカザキ病院に入院する広畑地域の患者  
の後送病院として回復期リハを実施）
- 4 病床数 90床（急性期45床・回復期45床、広畑病院新館の活用を想定）  
※製鉄記念広畑病院のH29年1日あたり平均入院患者数のうち  
後医療機関で設置する診療科の患者数の合計…78人
- 6 開院予定 平成35年春以降 建物譲渡・改修後  
（製鉄記念広畑病院閉院後概ね1年以内）

外科治療への対応方針

製鉄記念広畑の機能を維持するため、以下の考え方により、外科系の  
医療機能はツカザキ病院へ集約して対応する

充実した外科治療を行うためには

- ①多数の外科医・麻酔科医が必要
- ②高度な手術を行うため高額医療機器が多数必要
- ③安定した経営を行っていくためには多数の外科適用患者が必要  
など、医療機能を分散して配置するより、集約化した方が望ましい

## ツカザキ病院の機能拡充

ツカザキ病院の機能を拡充し、2次救急を中心に救急患者の受け入れ拡大を図るとともに、地域完結型の医療を目指す

(ツカザキ病院病床拡張の内容)

救急患者を中心に慢性的に満床状態が続いていることから、出口問題の解消のために病床を拡張する。

- 1 病床数 40床 (回復期 1病棟)  
※現在のツカザキ病院201床を241床に拡大
- 2 病床種別 回復期リハ病棟 (急性期病床が満床状態のため回復期リハ病床を設置し退院を促進し、救急病床の回転率を向上させる)
- 3 開院時期 平成30年秋以降

(ツカザキ病院の診療機能の拡充)

- 1 内容 北館の増築による、MRI室、血管造影室、リハビリ機能の充実
- 2 拡張時期 平成31年春以降

## 市南西部医療提供体制の拡充

- 三栄会が後医療を引き継ぎ、ツカザキ病院との連携により広畑地区を含めた市南西部の医療提供体制を充実していく

- ① 救急救命センターや集中治療室での治療が必要な患者さんは、統合新病院で現在より高度な治療を受けることが可能となる。
- ② 外科の急性期医療が必要な患者さんは、簡単な縫合処置等であれば、後医療病院の総合診療科で実施する。  
手術等が必要な状況であれば、約6kmの距離にあるツカザキ病院への専用車両により転送する。症状によっては約9kmの距離にある新病院などに転送し、充実した外科治療が可能となる。
- ③ 内科の急性期医療が必要な患者さんは、内科の2次救急輪番制に参加する体制が整っていることから、後医療病院での治療が可能。

- これらの取り組みにより、これまでと同等か若しくは充実した医療提供体制を確保する



# III ま と め

## まとめ(市南西部医療提供体制の拡充)

- 高度急性期医療は新病院整備により、診療機能を充実させます
  - 内科救急は、現広畑病院で後医療機関が実施します
  - 外科については、ツカザキ病院との連携により対応します
- ※市南西部に130床の病床を追加で配置し、医療提供体制を充実させます

